

## 挨拶

鹿児島大学に南方海域研究センターが発足しましてから4年たつわけですが、その間に南海研センターとしましては、3回にわたりまして南方海域に調査隊を派遣して現地調査研究をいたしました。

また一方では学内で南方海域に関しますところの研究会やシンポジウムを毎年開いております。それには本学の各学部の教官のみならず、本学以外の大学、研究所の教官、研究者の方々も参加して戴きまして、南方海域に関する全国的な共同研究が行われていると言うことは、誠に御同慶の至りでございます。

本日は「南方地域有用農作物遺伝子源の分布と探索」と言うテーマでシンポジウムが開かれますが、これには高知大学の前田先生、明治大学の秋濱先生もわざわざ参加戴きますし、それに昨年10月から11月にかけてアフリカの方に調査研究にまいりました本学の片山教授、この3人の方々の研究報告が行われることになっております。私は、専門は文系で先生方の御研究については十分な理解は出来ない訳でございますが、この地球上に極寒の地から熱帯地域にわたるまで各地に人間が分布生存いたしております。それはやはりそれぞれの地域に人間が生存し得る食物としての植物が分布存在していることだと思います。むしろ人間よりもそういう植物の方が地球上に先に存在していたことでしょうけど、そういう色々な人間にとっての有用な植物の地球上の各地域、各条件におけるところの分布状態、そういうものを研究していくということは、我々人類にとって、同時に学問にとって非常に大事なことだと思います。

本日の研究テーマが、そのような主旨のもとでなされております3人の研究者の方々の研究発表であるということで、非常に意義深いことだと思います。どうぞ、本日の研究から更にこの方面におけるところの日本の研究が進歩発展するであろうことを期待いたしまして、私の御挨拶、ならびに祝辞といたしたいと思っております。

鹿児島大学学長 石 神 兼 文